

「京式部」の成熟期調査及び坪刈り調査の実施

「京式部」は、高温耐性を持ち、京料理に合う京都府のオリジナルブランド米品種です。

当センターでは、「京式部」の環境負荷低減を目指し、専用の脱プラスチック発型肥料の開発や作期拡大のための早植技術の確立などに取り組み、肥料の種類や栽植密度や田植え日を変えた試験を行っております。

9月に成熟期を迎え、成熟期調査を行ったのち、坪刈りを行いました。今後は、収量・品質・食味調査を行っていきます。

※ 成熟期調査:成熟期に全長・^{かんちょう}稈長・穂長・全穂数・有効穂数・遅れ穂・被害穂を計測する調査



成熟期調査の様子



坪刈りの様子

通信経費が不要の LPWA[※]を利用する獣害防護柵 の侵入感知装置の実証評価

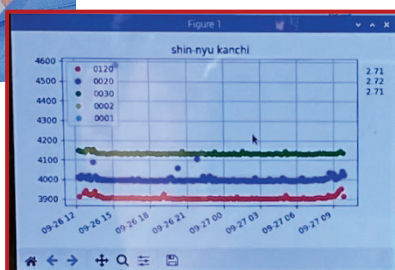
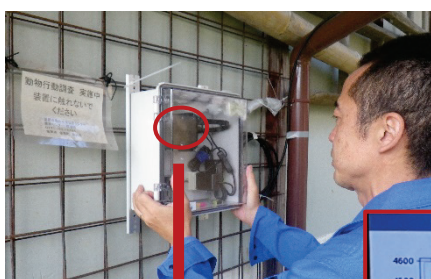
ニホンジカやイノシシなどの獣害対策の恒久的防護柵は、府内で令和 4 年度末までに 3,979km が整備され、野生動物による農作物被害額はピーク時に比べて減少しています。この状態を維持するには防護柵の保守管理が重要です。

そこで、当センターでは、野生動物が防護柵に侵入すれば、すぐに防護柵の見回り点検や補修等を行えるよう、侵入感知装置(プロトタイプ)の実証評価を進めています。この装置は、侵入時の防護柵の揺れの状況を、通信経費が不要の LPWA[※]を利用して防護柵に取付けた端末から農家側の受信機に送信するものです。

8 月 4 日に集落を囲む防護柵の一部の区間に侵入感知装置を設置して約 2 か月間動作を検証したところ、LPWA であっても、端末の揺れの状況を受信機に継続的に送信できることを確認しました。

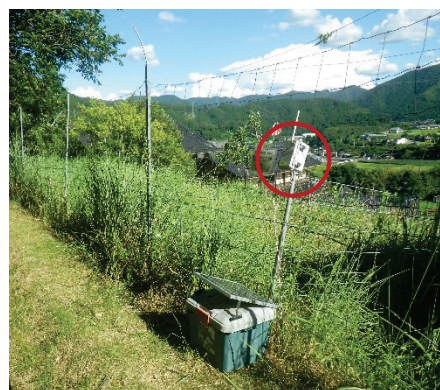
今後は、防護柵を監視する無人カメラが端末が揺れる際に捉えた画像を用いて野生動物の侵入感知性能を評価するとともに、冬期を含めた耐久性能を評価します。

※ LPWA:「低消費電力広域通信」Low Power Wide Area の略。省電力かつ広範囲での無線通信が可能な通信技術。通信速度は遅いが、運用コストは低い。



農家側受信機の設置作業と稼働後画面
揺れた端末は外れてプロットされる

農 林 セ ン タ ー



防護柵に取付けた端末
下箱はソーラーパネルと
バッテリー

スギ、ヒノキの^{きゅうか}球果 採集はじまる

当センターでは、優良な林業用種苗の供給により適切な造林を推進するため、造林樹種の種子生産に取り組んでいます。種子採取を目的に優良品種からなるスギ、ヒノキの採種園で^{きゅうか}球果^{*}の採集を9月20日から始めました。

スギ、ヒノキ、アカマツ、クロマツの種子採取の時期は、林業種苗法施行細則(昭和46年5月14日京都府規則第13号、最終改正令和5年9月8日)により、9月20日以降と定められています。これは、優良な種子が採取できるよう未熟な球果の採集をふせぐためです。

採集した球果を陰干しで予備乾燥、次いで人工乾燥を行い、しっかり乾燥し鱗片を開いた球果から種子をふるい出して取り集めます。集められた種子は、精選して苗木生産者への配付を待ちます。

※球果: 裸子植物である針葉樹がつくる果実のようなもの。被子植物と異なり子房をもたない^{ほいしゅ}胚珠が複数個あつまって球形に成長したもの。胚珠は成長して種子となる。松かさも球果のひとつ。



採種園で小枝ごとスギの球果を採集している様子



持ち帰った小枝から球果だけを切り取る作業



スギ球果の乾燥(陰干し中)

ナシ「甘太」の収穫・調査を開始しました

ナシ「甘太」は、丹後地域の主力品種「ゴールド二十世紀」より遅く収穫できる食味良好な品種で、栽培面積も増加傾向にあります。

今年当所では、9月下旬から重さ550g程度、糖度14.5度程度と非常に甘い果実が収穫できました。

しかし、「甘太」は、果実を収穫した跡周辺に、翌年、開花・結実する花芽が安定して着生しない特性が見られます。

そこで、当所では、枝当たりの着果量が、翌年の花芽の着生量に及ぼす影響を調査しています。

今後、花芽の着生量を調査し、毎年安定して開花結実させるための適切なせん定方法の確立を目指していきます。



「甘太」の果実収穫跡(中央)

ナシでは通常、収穫跡の左右に来年開花する花芽が着生します。

京都先端科学大学の見学を受け入れ

当所の重要な機能として「宇治茶の価値、魅力の発信」があります。9月5日には京都先端科学大学の学生25名が授業の一環として見学実習のため来所されました。宇治茶についての情報のほか、研究機関の役割や取り組んでいる研究内容など、当所の仕事への理解を深めてもらいました。

学生はチャの新しい品種が長い年月を経て育成されることに高い関心を示し、また、「京都の大学生なのに宇治茶について初めて知ることが多かった」「これからはいろいろなお茶を飲んでみたい」等の感想を述べていました。

今後も、より多くの方のニーズに応え、積極的に見学を受け入れていきます。



当所の研究内容を紹介



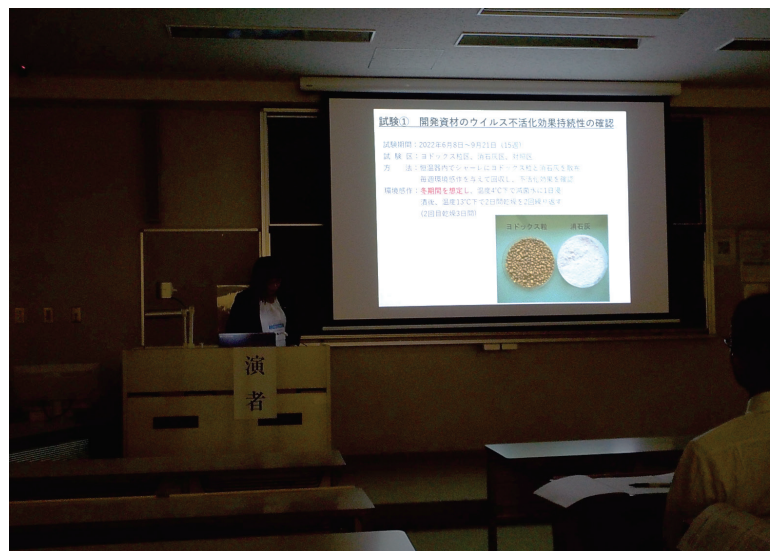
育種ほ場で新品種育成について説明

待ち受け型病原体侵入防止資材の研究成果を学会で発表

当センターが産官学連携で共同開発した待ち受け型病原体防止資材「ヨドックス粒」の研究成果について、9月1日に開催された令和5年度近畿地区鶏病技術研修会及び9月17日に開催された令和5年度獣医学術近畿地区学会(いずれも開催地は大阪府)にて発表を行いました。前者は養鶏に係る畜産関係者、後者は主に近畿地区で活動する獣医師が参加する学会で、意見交換により研究の質を高める場として活用されています。

10月から始まる高病原性鳥インフルエンザの重点対策期間に向けて防疫対策に使用できる資材ということもあり、出席者の関心が高く、現場での使用を検討したいという意見もいただきました。

課題である運用コストの削減に向けての試験を今後も実施し、さらに現場で使いやすい資材を目指し、普及に繋がります。



獣医学術近畿地区学会での発表の様子

漁業者検討会を実施

マナマコは浅海域に生息し、古くから食材として用いられてきたことに加え、近年では海外への輸出が増加していることから、沿岸漁業者にとって重要な漁獲対象種となっています。

京都府における本種漁獲量の約7割は、舞鶴湾において^{けたあみ}桁網^{*}と潜水の2種類の漁法によるものですが、同湾では漁獲圧の増大による資源の乱獲が懸念されました。そこで今年度は「舞鶴湾におけるマナマコ漁業の複合的資源管理の取組」というタスクチーム活動を水産事務所と共同で実施しています。

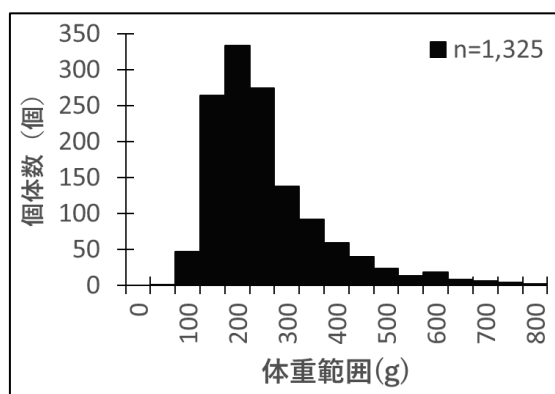
この活動は、当センターによる同湾のマナマコ漁業に対する研究結果(令和2~4年度)を基に、漁業者と共に本種の資源管理手法について協議し、同湾における本種の資源及び漁獲量の安定化を図るものです。

9月15日に舞鶴湾の桁網・潜水漁業者と共に検討会を開催し、当センターから令和4年度調査結果の報告に加え、冬季から始まる令和5年度漁期における資源管理手法(体重規制の強化)を提案したところ、漁業者からも資源管理への前向きな意見が出されました。今後も資源管理の実施に向けて、協議を重ねてまいります。

※桁網:金属製の枠(桁)を付けた網、小型の^{そこびきあみ}底曳網^{*}の一種



舞鶴市場でのナマコ調査の様子
(写真でナマコの体長を測定する)



舞鶴市場での漁獲物の体重組成